



人と地球の未来を考える
社会環境報告書
2008



コベルコ建機グループのCSR活動 —— 未来 へつながる明るい社会のために

**強さとやさしさを備えた
企業であるために。**

1930年、日本で建設機械の第1号機をつくったのは、私たちコベルコ建機でした。以来、およそ80年の歴史の中で、さまざまな事業環境の変化に対応しながら、脈々と流れるチャレンジスピリッツとフロンティアスピリッツで、常に新たな課題に果敢に挑戦し続けています。

そして現在、世界有数の建機・農機メーカーであるGNHグローバル社との全世界包括提携によって、世界第3位の建設機械グループへと成長を遂げました。より高度な技術と品質に支えられた製品・サービスを日本はもとより、世界中の現場に提案できる体制を確立し、さらなる信頼へとつながっています。

当社の設立から脈々と引き継がれてきた理念は「ユザー現場主義」。昨今ではその理念により、省エネや極低騒音など環境性能の高い建設機械を世に送り出すことができました。

さらにその理念は、製品を超えて、ステークホルダーの皆さまへの想いとして広がっています。ステークホルダーの皆さまに末長く信頼していただくため、そしてユザーに選んでいただける「商品」「会社」「社員」づくりのために、私たちにできることを精一杯取り組んでまいります。身の丈に合った活動を点から線へ、そして面へと粘り強く展開していくことで、きっとその先に私たちの描く未来の姿が現れてくると考えています。

私たちは、豊かな「未来」を育むために、「今」を大切に活動したいと思っています。「地球」と「社会」と「人」のために、着実に、継続的にCSR活動に取り組み、強さと優しさを備えた、しなやかな企業であり続けることをコベルコ建機グループは目指します。



●社会環境報告書の発行にあたって

コベルコ建機グループでは、従来から行ってきた国内外における被災地への支援活動などの社会貢献活動に加え、人材育成・地球環境保護なども目的としたCSR活動を、2006年度より本格的に開始しました。

昨年、初めて社会環境報告書2007を発行し、当社グループのCSR活動を紹介しました。CSR活動におけるメッセージを主体に、考え方や方針など、概念的なことに注力したのが特徴です。

今回の報告書は第2回目にあたります。前回より、さらに一歩踏み出して、具体的な活動内容を主に取り入れて作成しました。具体的な紹介をすることでグループとしての活動全体を伝え、さまざまな視点から評価いただくことでコベルコ建機グループのCSR活動を、よりいっそう活性化させていきたいと思います。

また、本報告書を通じて、社員やユーザーなどをはじめ、取引先企業や地域社会の方々、事業活動に関わるあらゆるステークホルダーの皆さまに、コベルコ建機グループへのご理解を深めていただければ幸いです。

●報告書の対象に関して

【対象組織】

コベルコ建機株式会社本社および、国内外の事業所、営業所、工場等、その他全ての関連施設を対象としています。

【対象期間】

2007年4月1日～2008年3月31日

【報告書発行】

2008年6月

グローバルに展開するコベルコ建機グループ

●会社概要

会 社 名	コベルコ建機株式会社
英 文 社 名	KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY CO., LTD.
創 立	1999年（平成11年）10月1日
事業所所在地	東京本社／〒141 - 8626 東京都品川区東五反田2丁目17番1号 TEL : 03-5789-2111 広島本社／〒731 - 0138 広島県広島市安佐南区祇園3丁目12番4号 TEL : 082-874-1111 大垣事業所／〒503 - 0932 岐阜県大垣市本今町1682番地の7 TEL : 0584-89-3104
資 本 金	160億円
代表取締役社長	島田 博夫（しまだ ひろお）
事業内容	建設機械、運搬機械の製造、販売並びにサービス
従業員数	750名（グループトータル4,940名） [2008年4月1日時点]
売上高	2,817億円 [2007年度]
国内法人	コベルコ建機東日本（株）、コベルコ建機関東（株）、コベルコ建機中部（株）、コベルコ建機西日本（株）、コベルコ建機九州（株） コベルコ建機エンジニアリング（株）、ユタニサービスサプライ（株）、コベルコ建機インターナショナルトレーディング（株）、 コベルコ教習所（株）、コベルコ豊田通商建機ホールディングアジア（株）、中村リース（株）、トーヨースギウエ（株） （株）ササイ、（株）ワイズヨシハラ
海外法人	KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY AMERICA LLC（米国） New Holland KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY S.p.A（イタリア） 成都神鋼工程機械（集団）有限公司（中国）、成都神鋼建設機械有限公司（中国） 成都神鋼小型掘削機有限公司（中国）、成都神鋼建機融資租賃有限公司（中国） 杭州神鋼建設機械有限公司（中国）、神鋼建機（上海）工程機械有限公司（中国） THAI KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY LTD（タイ） KOBELCO INTERNATIONAL（S）CO. P T E. L T D（シンガポール）、RICON PRIVATE LIMITED（シンガポール） KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY MALAYSIA SDN. BHD（マレーシア） KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY VIETNAM CO., LTD.（ベトナム） Pt. DAYA KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY INDONESIA（インドネシア） KOBELCO-CNH AUSTRALIA PTY. LTD.（豪国）、KOBELCO CONSTRUCTION EQUIPMENT INDIA PVT. LTD.（インド）



目次 Contents



- 01 ● コベルコ 建機グループのCSR活動
- 03 ● 会社概要
- 05 ● CSR メッセージ
- 07 ● トップメッセージ
- 08 ● 企業理念
- 09 ● コベルコ 建機グループのCSR

コンプライアンス・全社活動報告

- 11 ● コベルコ 建機グループの
コンプライアンス活動
- 13 ● コベルコ 建機グループの全社活動

地球環境保全活動報告

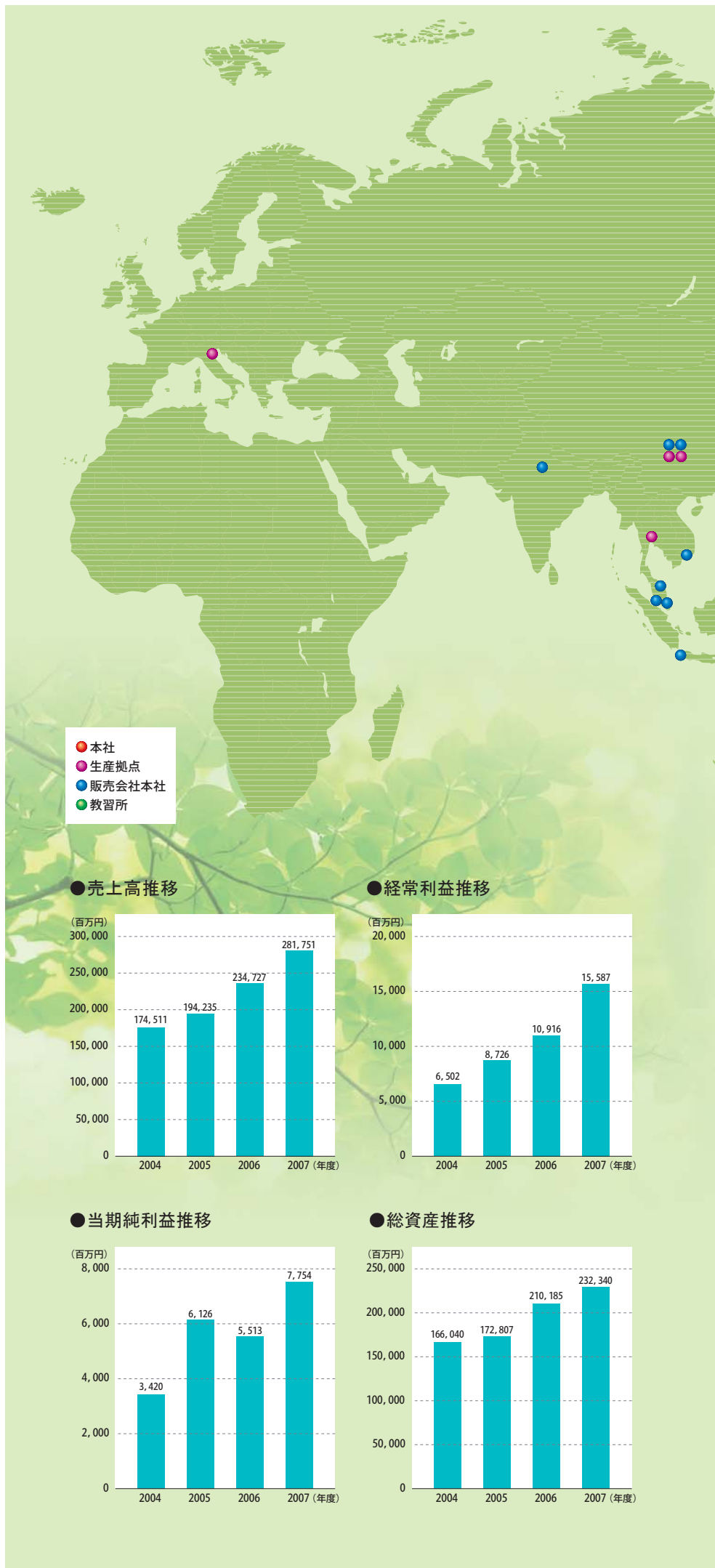
- 15 ● 全社環境統括責任者メッセージ
- 16 ● 環境マネジメント の取り組み
- 19 ● 新システムの開発 ―iND―
- 21 ● 環境リサイクル機械
- 22 ● 地球温暖化対策

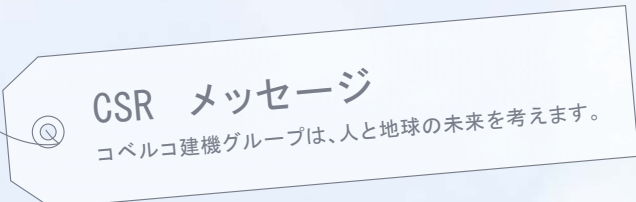
社会・地域活動報告

- 23 ● コベルコ 建機CSR基金
- 25 ● さまざまなCSR活動

社員のコメント

- 29 ● 社員から見たCSR活動
- 30 ● 編集後記





CSR メッセージ

コベルコ建機グループは、人と地球の未来を考えます。

Message 1

コベルコ建機グループは、これまで環境問題に取り組んだなかで培ったノウハウを活かし、コベルコ建機グループならではの地球環境保全を行っています。

Message 2

コベルコ建機グループは「人と地球の未来を考える」をコンセプトに、地域社会への貢献と地域住民の方々との共存に努めています。

Message 3

コベルコ建機グループの社員は、より良い未来の実現に向け、共に泣き、笑い、励まし合いながら進んでいくパートナーであり、大切な仲間です。

地球環境保全に対する取り組み

Message 1

地球が本来の姿を取り戻すためには、地球環境そのものを回復させていくことが重要です。

コベルコ建機グループでは、地球環境を守るために、燃費を20%改善した新型シヨベルやハイブリッド建設機械など、環境への負荷を低減する最先端の製品を生み出しています。あわせて、工場内での省エネ活動の推進や、社用車・営業車のハイブリッドカーへの切り替えなど、地球環境保護に対するさまざまな対策を実施。全国的な取り組みである温室効果ガス抑制プロジェクト(チーム・マイナス6%)にも参加し、社員それぞれが身近な活動を行っています。

また、「地球を守る・地球を救う」ための環境リサイクル機械の開発にも力を入れています。例えば、解体作業現場で、解体の作業プロセスをそのままリサイクルのプロセスとし、金属スクラップなどを再資源化できるような環境対応型建設機械の開発を推進しています。

これからも、建設機械メーカーならではの環境技術やノウハウを活かし、一歩一歩着実に地球環境保全に対する取り組みを続けていきます。



社会・地域への貢献と共存への取り組み

Message 2

コベルコ建機グループでは、地域社会への貢献と地域住民の方々との共存実現に向けた第一歩として、本社や工場、営業拠点出入り口への花壇の設置や事業所周辺の清掃活動から始めました。さらに、コベルコ建機グループ自身が地域社会との交流の場所や象徴となることを目指し、工場見学や写生大会の開催なども積極的に行っています。

また、地域社会のみならず、社会全体への貢献活動を推進するため、『コベルコ建機CSR基金』を設立。地域社会への支援、地球環境の保護、人材育成など、さまざまな支援活動案を常に社内公募しています。その成果として、世界遺産の修復に関わる人材育成活動や世界各地での教育支援など、幅広い取り組みを実施してきました。地震などの大災害が発生した場合には、義援金の提供や復興支援に必要となる建設機械の寄贈だけでなく、オペレーターを派遣して現地の復興活動にも参加しています。『人と地球の未来を考える』企業として、これからもコベルコ建機グループは地域社会への貢献を積極的に支援、実施していきます。



社員に愛される企業を目指して

Message 3

社員に愛される企業を実現させるため、コベルコ建機グループが大切にしているのは、社員一人ひとりがグループの一員として、誇りや喜びを感じながら企業活動に携われるように、しっかりとサポートしていくことです。そのために社内環境の充実を図り、コベルコ建機グループの主要拠点へのAED(自動体外式除細動器)の設置と、AED操作を含めた救命教育を推進しています。

社員にはNPOやNGOを通じた支援や、発展途上国への寄付活動などを自らが企画・実行し、CSR活動の担い手としての認識を高めてもらうことを望んでいます。実際に、社員からは期待を超える活発なアイデアが次々と提出され、大変喜んでいきます。このような社員の自発的な取り組みに対するバックアップ制度を充実させ、社員によるCSR活動の支援に努めており、その一つとして、福祉休暇をボランティア活動に利用する制度も設けました。社員に愛される企業の実現を通じ、コベルコ建機グループと社員が「丸となり、質の高い社会貢献活動を行う体制づくりを、これからも推進していきます。



CSR活動が、会社と社員の成長を支えていく

コベルコ建機グループは、グローバルに活動する企業です。だからこそ、それに適した明確な社員育成のイメージ、社員自身の自覚、ルール作りやサポート体制が大切だと考えています。

現在の従業員構成は、全事業を通して日本人は半分以上であり、多くの外国人がコベルコ建機グループで働いています。にもかかわらず、連合意識がまだ弱い。日本人は日本で、中国人は中国で、タイ人はタイでと、自国で働いている意識しかあり

ません。私たちの会社は、多国籍の人が働く会社であるということを、まず認識していただきたいと思っています。

そこでCSR活動が役に立つわけです。CSRは社会貢献ではありませんが、福祉活動ではありません。単なる寄付やボランティアではコベルコ建機グループの枠を超えてしまいます。コベルコ建機グループとして、収益の中から還元するからには、ビジネスを展開している地域に根ざしたものであるべきです。CSRはそこで働くコベルコ建機グループの社員たちをサポートし、心や活動の役に立つことが基本なのです。だからこそ各事業所からの提案を検討し小さな活動にも支援を惜しみませ



コベルコ建機株式会社
代表取締役社長

島田 博夫

従業員と、彼らが働く地域へのサポートこそ コベルコ建機グループのCSR活動の本質。

グローバル企業であるコベルコ建機グループにおいて、
CSR活動 とは何か、どんな方向性を持っているのか、島田社長がその思いを語りました。

ん。何か小さなことに取り組めば、その国を理解するチャンスにもなります。次のステップアップをする前に事業領域の声を拾い上げる、それがグローバル企業として成長していく足がかりになるのです。

コベルコ建機グループの社員に「定年まで勤めてよかった」と実感してもらえなければ、会社としてもっとも幸せな形です。超一流のベストカンパニーでなくともいい、社員を思いやるグッドカンパニーであればいいと、私は思っています。

中期経営ビジョンの成果と、次なる課題

今年最後の年となる中期経営ビジョンの基本目標は「変化に強い事業体の構築」でした。低迷期だった私の就任時、どんな時にも一定の収益を上げられる体質を作っておこうと考えたわけです。しかし現実には、予想をはるかに上回る成長によって事業が拡大され、爆発的な成長への準備をしていなかったのが反省点となりました。

事業経営は先が見えないからこそ難しいのですが、今のコベルコ建機グループには課題がちゃんと見えています。ただ今度の課題は、業界全体を巻き込むほど大きなものであり、そのインパクトとコストアップにどう対応していくかが問題です。

地球環境保全に関しても然りです。環境問題は地球レベルで考えるべきであり、もはや小手先の技術共有で解決される問題ではありません。私たちコベルコ建機グループの場合、シヨベルのハイブリッド化など環境保全に貢献できる製品開発に力を注いでいかなければなりません。事業とそして環境への挑戦を続けるためにも、皆さん一人ひとりに「さすがコベルコ」のスローガンと精神を引き継いでいただきたいと思います。

トップメッセージ

企業理念

経営理念

当社は、ユーザー現場主義に基づき、真に価値ある商品、サービス、情報を提供することで顧客の満足に応えらるとともに、豊かな社会の建設に貢献する。

行動指針

当社にとって、顧客の満足に応え社会に貢献することが経営理念とするならば、我々の全ての行動はこの理念に沿うものでなければならない。

1

シンプル

社会における使命と役割を充分認識し、是々非々を明らかにした公明でシンプルな行動をめざす。

2

スピード

日々独創性と感性の研究に努め、顧客と時代の要請にスピードをもつて的確な対応をめざす。

3

オープン

互いの人格と個性を尊重するとともに公正を旨とし、オープンで活気あふれる自由闊達な社風の醸成をめざす。

中期経営計画

中期スローガン

やすがコベルコ!

選択される「商品」「社員」「会社」へ

2006年～2008年度 中期経営ビジョン

私たちは、人と環境にやさしい循環型社会創出のため、世界中のお客様に対し、創造的な”知と技”により、革新的ソリューションを提供いたします。

このお客様価値の最大化活動を通じて、
私たちは持続的成長を実現し、グローバルトップブランドを目指します。



コベルコ建機グループのCSR

コベルコ建機グループは、「人と地球の未来を考えるコベルコ」として、地球と社会と人にやさしい企業を目指しています。CSR組織体制を構築し、活動方針・活動ポリシーに従って、さまざまな活動を継続しています。

CSR活動方針

世界中のユーザーとの強いパートナーシップのもと、私たちは持続的成長を実現することを通して人と環境にやさしい循環型社会の創出に取り組んでいます。そして、コベルコ建機グループに脈々と流れるヒューマンな心情を受け継ぎ、CSR活動を通して、社員一人ひとりが磨かれ、成長するきっかけにしています。

その活動の中で私たちは次の3つの方針のもと、活動を行っています。

- ①コベルコ建機グループはコベルコ建機グループならではの地球環境保全を行います。
- ②コベルコ建機グループは、地域社会への貢献と地域住民の方々との共存に努めます。
- ③コベルコ建機グループは、社員と共により良い未来の実現に向けて進んでいきます。

CSR活動ポリシー

●人道主義的でコベルコ建機グループの存在感を増すものであること。

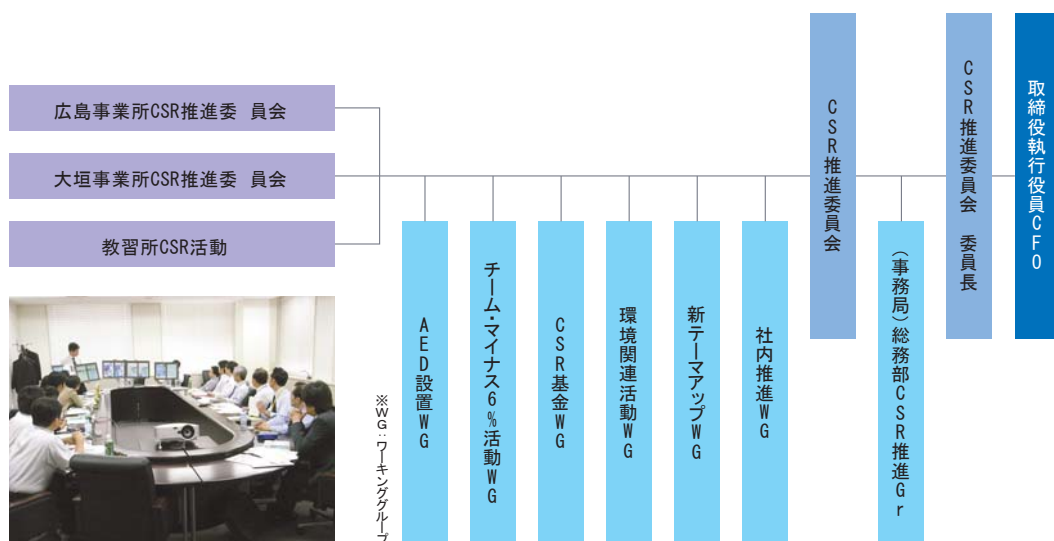
●身の丈に合った活動であること。

●事業を展開している地域での活動であること。

この3つのポリシーに従って「人と地球の未来を考えるコベルコ」をコンセプトに、さまざまな活動を進めています。単純に利益が出たからその一部を寄付するといった機械的なものではなく、本来の意味で人や環境、そして自分たちのためになっているかどうか分かりません。コベルコ建機グループでは、お互いに理解しあい、心が通うような活動や支援を大切にしています。まずは身近な人々に、まずは事業を展開させている地域に。世界で、国内で、コベルコの建設機械があるそばで、コベルコ建機グループのプレゼンスを高めていくような活動を、一つひとつ行っていきたいと思っています。

CSR組織体制

コベルコ建機グループは左記の組織体制を構築し、CSR活動を推進しています。CSR推進委員会は、CFOを筆頭に全社各部門の中堅、若手社員から選出されたメンバーで構成され、CSR活動の新規案件、スケジュール、中期計画などCSR活動の中核を担っています。



CSR推進委員会

CSR活動の経緯

コベルコ建機グループでは、CSR推進Gr発足以前より、自然災害等により被災した地域へ、義援金の寄付や建設機械の寄贈を行ってきました。また、従来より建設機械メーカーとして当然ながら、化学物質、環境リスク等の環境活動も徹底してまいりました。これらに加え、地域社会への貢献や地球環境保全に対する活動を二層充実させ、当社の事業として実行するために、2006年度に運営体制を整備しました。2007年度にはこうした体制のもと、CSR活動ポリシーに則りさまざまな活動を実行することができました。

～2005年度	2006年度	2007年度
災害復興支援（各国、地域への復興支援）		
環境活動 ●化学物質の管理/削減 ●環境リスク管理	●環境管理事務局の発足 ●環境教育、研修計画 ●チーム・マイナス6%の参加	●環境管理方針の確立 ●環境マニュアルの策定 ●緑化プロジェクト検討 ●社会環境報告書発刊
	運営体制 ●CSR推進Gr発足 ●活動計画、コンセプト策定	●広島／大垣委員会設置 ●新テーマ検討部会 ●社内CSR啓蒙活動 ●環境活動のHP開設
	地域社会活動 ●コベルコ建機CSR基金設立 ●本社前花壇清掃（東京） ●近隣小学校写生大会（教習所） ●交通安全教室開催（教習所）	●AED導入 プロジェクト ●CSR基金案件実施
		社内／社員 ●CSR賞制定 ●AED設置



CSR活動の啓蒙



促進小学校（中国）への支援



展示会でのCSRのPR活動



品川区福祉協議会へのAED寄贈



チーム・マイナス6%への取り組み



義手対応ショベルの開発



熊本教習センターでの活動



教習所へのAED設置

範 囲	項 目	内 容
環 境	チーム・マイナス6%の拡充	適用範囲を広げ、活動を活性化させます。
	環境保全	環境保全内容を検討し、取りまとめます。
	エコバック制作	社内向けエコバッグを制作し、エコ募金を始めます。
	書類削減	電子化によるペーパーレスを進め、書類を削減します。
社会・地域	CSR基金	継続、新規案件に対し、基金を通じた活動を実施します。
	AED設置	主要拠点、教習所へAEDを導入します。
	花植え活動	本社、工場で花植え、清掃を行います。
社 員	AED設置	全拠点・全事務所へAEDを順次導入します。
	CSR賞表彰	優秀な活動成果に表彰を行います。

今後のCSR活動計画

2008年度は、現在まで行われてきた活動をもとにして、主に左表のような取り組みを予定しています。今後も活動方針に従い、活動ポリシーに則って、コベルコ建機グループのCSR活動にふさわしい活動と質の高い環境・社会活動を実行していきます。

コンプライアンス・ 全社活動報告

コベルコ建機グループのコンプライアンス活動

コベルコ建機グループのコンプライアンス活動は、社員を守り、会社を守る活動です。常識と法令を遵守し、人として企業として社会的な責任を果たすことは、社会の一員として当然のことです。グループ各社を含むコンプライアンス体制を構築し、グループ内の隅々まで、高い意識を浸透させていきます。

コンプライアンス活動

コベルコ建機グループではコンプライアンス活動の趣旨に準じ、『コベルコ建機グループの行動規準』を作成、徹底しています。また、基本方針とコンプライアンス5原則を掲げ、社会的責任を果たすように努めています。

基本方針

- ① 私達はあらゆる企業活動において関係法令及びこの行動規準を含む社内諸規定を遵守し、企業倫理と社会常識から逸脱しないよう行動します。
- ② 私達はあらゆる企業活動において人権を尊重し、人種、性別、職業、年齢、国籍、社会的地位、宗教、身体的障害、言語、出身地等に対する差別を行いません。
- ③ 私達はあらゆる企業活動において当社と利害関係にある全ての人達との間で公正な取引を行います。
- ④ 私達は常に高い倫理観に基づき行動し、反社会的な行為や会社の名誉や信用を損なう行為を一切行いません。
- ⑤ 私達は常に安全性高く、地球環境の保全に十分配慮した商品を提供し、併せて顧客に喜ばれるサービスや必要な情報をタイムリーに提供します。

コンプライアンス5原則（社会の常識を守る）

- ① ルール違反・不正をしない。
- ② ルール違反・不正があった場合には、隠さない。
- ③ ルール違反・不正を発見した場合には、直ちにコンプライアンス責任者に報告する。
- ④ ルール違反・不正について報告した者は決して不利益を受けない。
- ⑤ ルール違反・不正に対し、即時に是正・防止策を実行し、的確・迅速に公表する

個人情報保護および企業秘密管理

コベルコ建機グループでは、『個人情報保護法管理規程』や『個人情報保護法ポリシー』、『企業秘密管理規程』を制定し、グループ全体の管理体制を整備しています。また、『個人情報取扱マニュアル』をもとに社内研修を定期的に開催し、個人情報や企業情報の保護意識向上にも努めています。

輸出管理

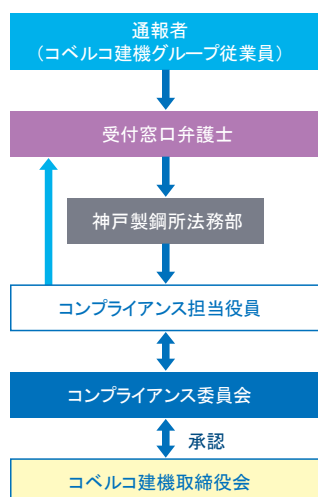
テロや紛争の脅威が絶えない今日、コベルコ建機グループは世界平和の維持を重視し、安全保障貿易管理体制を設けています。輸出に関わる諸法令を遵守すべく、輸出業務を行う部署に対し定期的に教育訓練や監査を行っています。

内部通報システム

コベルコ建機グループでは、法令・企業倫理・行動基準に違反することによるリスクの顕在化、拡大を未然に防止、また早期に問題を把握し対策を講じ、企業としての浄化作用を促進する仕組みとして、『内部通報システム』を設けています。また運用に際しては、通報者が“通報を行ったことにより不利益を受けない”という原則を厳守しています。

内部統制

コベルコ建機グループは企業におけるマネジメントの透明性を高めるため、内部統制の整備に尽力しています。国内では社員が「丸となり諸規程の見直しを行い、組織風土の改善・業務の“見える化”を実現すべく内部統制整備の活動を行っています。海外現地法人でも同様の活動を進めており、2008年末には全社の内部統制体制を確立することができると見通しとなっています。



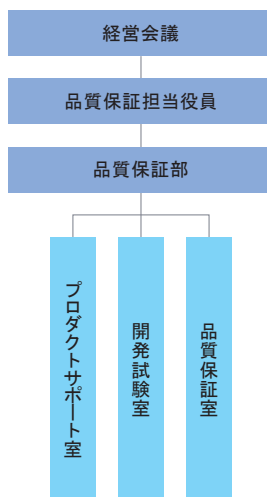
製品の品質と安全

品質保証

■品質理念

『ユーザー現場主義』の考え方を重視し、顧客の要求する品質をつくり込むことにより、顧客の満足度と信頼を得る製品を提供し、社会に貢献するとともに社員ならびに会社の繁栄に寄与する。

■品質保証体制と取り組み



品質保証部の活動

品質保証とは環境に配慮した、安全で良い品質の製品・サービスを提供しようとする仕組みを示します。

コベルコ建機グループでは商品企画から開発、生産、販売、サービスに携わる全ての部門が、ユーザー価値の最大化、つまり、安全で高品質な製品の提供を追求しています。品質保証部は、これらの活動が有効に機能し、更にユーザーの満足度向上につながるよう品質保証システムの改善活動を行っています。

また、コベルコ建機グループが販売する全ての製品の品質についても責任を負っています。安全で高品質な製品をユーザーにお届けするとともに、市場で品質問題が発見された場合には、迅速で的確な対応（是正処置と情報公開、リコール届出など）に努めています。

品質保証室の活動

国内外でコベルコ建機グループの販売する製品が、狙いの品質を達成できるようにモノづくりのプロセス（仕組み）を監査し、各プロセスの品質保証体制が有効に機能するように関係部門（サプライヤー、国内外工場群）と協力し、品質改善を推進しています。



開発試験室の活動

コベルコ建機グループの開発する製品が、安全であるか、狙い通りの品質に達しているか、ユーザーの要求に合致しているか、厳格に評価し、製品が市場に出るまでに、開発部門と協力し、設計品質をつくり込む活動を行っています。



プロダクトサポート室の活動

市場からの情報を開発・生産へ、開発・生産からの情報を市場へ、迅速にフィードバックする、まさに“ユーザー現場主義”の根幹を担っています。

技術情報の発信や、トラブルシューティングへの支援など、ユーザー／サービスの立場に立った早目・厚目の対応で、問題の早期顕在化、早期解消に努めています。

ユーザーへのサポート・サービス

コベルコ建機グループは、ユーザーの下で活躍する製品が、“元氣よく”“安全に”働き続けることが顧客満足度向上の大切な要素だと考えています。そのために、タイムリーな機械のメンテナンスはもとより、世界中のサービスマンの技術レベル向上、ユーザーへの技術的なアドバイスや情報提供に力を入れています。

フィールドサービス

部品の交換、各種オイルやグリースなどの補給、整備、修理など、建設機械の整備はその大半がフィールドで行われます。コベルコ建機グループでは、全世界のサービスマン・販売会社と連携し、納入後の機械管理や機器などの耐用年数を把握、補給部品の供給を行っています。



研修・教育

コベルコ建機グループでは、整備技術や機械構造の研修・各種資格取得・新製品の研修などを行い、国内外のサービスマンの技術レベル向上に努めています。また、各拠点や自宅ですぐに学習ができるように、eラーニングシステムの開発にも力を入れています。



コベルコ建機グループの全社活動

コベルコ建機グループの全社活動は、社員が中心です。社員に愛される企業を実現するため、社員一人ひとりがグループの一員として、誇りや喜びを感じながら企業活動に携われるように職場環境を整備、サポートしています。

職場づくり

コベルコ建機グループは、「人を大切にする」観点から、社員に愛され、社内外から信頼される企業を目指して、人事・福利厚生面の面においても法律に則した社内制度を整えています。さらに独自の対策も加え、健全で働きやすい職場づくりに努めています。



子育て支援制度

2005年度に一般事業主行動計画を策定し、仕事と育児の両立を図るための雇用環境整備を進めてきました。今回の行動計画では、雇用環境の整備に向けた基盤づくりとして、次の3点を重点課題として積極的に取り組んでいます。

重点課題

- ① 出産・育児などに関する情報提供とバックアップに関する体制を整備する。
- ② 職場優先の意識や固定的な性別役割分担などを改善するための措置を講じると共に、年次有給休暇の取得促進のための措置を講じる。
- ③ インターンシップ等を実施することにより、若年者の就労意識の高揚ならびに自立支援に取り組む。

2008年度の具体的な取り組み

- 男性社員の妻が出産したときの特別休暇（有給を「2日間」から、「男性社員、女性社員を問わず、満3歳までの子の育児に携わるときに年間5労働日以内」に改善しました。
- 育児休業制度について、これまで最長の場合で、子が「1歳6か月に達するまで」としていたものを「3歳まで」取得可能としました。
- 仕事と子育ての両立を容易にするため、「就業時間等への配慮」ならびに「深夜勤務および一定時間を超える時間外勤務の免除」に関する対象を「小学校卒業までの子を養育する社員」としました。

介護支援の充実

家族の介護を続けるには、思う以上にお金が必要となります。その反面、時間の制約が生まれます。これが、介護をする人の大きな負担となっているのが社会の現状です。そこで、少しでもその負担を和らげられるよう、法定以上の独自基準を設け、取り組みを実施しています。

● 介護休業の充実

最長3年間の休業取得が可能

● 就業時間の短縮

就業時間を1日あたり1時間短縮が可能

● 福祉休暇の利用

介護・看護の場合は1日から利用が可能



セクシャル・ハラスメント防止の取り組み

セクシャル・ハラスメントは職場環境を悪化させる、大きな問題となります。コベルコ建機グループでは、「社員のための行動引き」や「労働協約」「就業規則」において、「セクハラ行為は許さない」ことを規程し、セクハラに対する姿勢を示しています。また、事業所ごとにセクハラ相談窓口を設け、相談員を配置して迅速に対応できる体制を整備しました。さらに、発生を事前に防止するために、「セクシャル・ハラスメント防止マニュアル」を作成し、周知を進めています。



メンタルヘルスケアの取り組み

広島事業所におけるメンタルヘルス活動3か年計画（2005年4月～2008年3月）の最終段階として、事業所・社員・家族の危機管理を目的とした管理職メンタルヘルステップアップ研修を行い、122名の参加者が集まりました。今後は監督者にはフォローアップ研修、新入社員にはセルフケア研修を行い、職場環境改善も含めて取り組んでいきます。



人づくり

インターンシップ

在学中の専門知識や将来のキャリアを念頭に置いた就業意識の向上、および仕事を通じてコベルコ建機グループを含めた建設機械業界あるいは会社における仕事の理解を深めてもらうことを目的にして、2005年度より公募制で毎年夏季に実施しています。昨年は合計15名の方々を東京・広島事業所にて受け入れました。



社員教育制度

仕事を通しての自己実現や、達成感を感じながら期待される役割を果たすことを人材育成の目標として、上司と部下とで話し合う場を設けています。社員一人ひとりが具体的な目標を持ち、その達成に向かい日々努力・成長していくために、自己申告制度で業務目標と将来のキャリアプランを作成。それをもとに、本人の希望と事業・部門におけるニーズを勘案しつつ、育成的見地からのジョブ・ローテーションも実施しています。また、新入社員から管理職まで各階層の社員に求められる能力や考え方を身に付けるために、階層別研修も実施しています。



シニア雇用制度

停年退職後本人が希望し、一定の基準を満たす人全員を『シニア雇用制度』により再雇用しています。この制度は、グループ会社共通の制度として導入しており、ベテラン層が持っている技術・技能を停年退職後の職場で引き続き活用することで、技能継承の円滑な推進や、本人の働き甲斐を通じた職場活力の維持・向上を図っています。

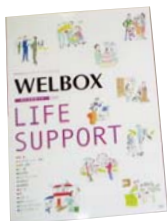
その他の取り組み

社員の声を反映する仕組み

労働組合と共に、定期的に厚生委員会を開催し、人事・福利厚生制度の見直しについて社員の意見を取り込んでいます。また、就業制度・退職金制度などの個々のテーマについても、労働組合と意見交換をしながら制度の構築に反映させています。

カフェテリアプランについて

ライフスタイルの多様化に伴う福利厚生制度の充実を図るため、2007年10月よりカフェテリアプランを導入しました。会社から配布されたポイントの範囲内で、複数の福利厚生メニューの中から、自分のニーズに合ったメニューを選択し補助を受けることができる制度です。メニューは財形貯蓄や自己啓発などさまざまで、2007年度も多くの人に利用されました。



腰痛予防体操の取り組み

腰痛既往者や予備軍の腰痛防止と長期休業の削減を目的に、広島事業所では1996年から腰痛予防体操を行っています。経緯は、当時腰痛での休業者が増加したことから調査の結果、デスクワークの従事者、特に開発部門の社員に既往歴や腰痛の訴えが多いことが分かりました。そこで、まずは開発部門から取り入れましたが、現在ではリラクゼーション・疲労回復も評価されて、毎月1回9か所で、トレーナーの指導のもとに行っています。



献血活動の取り組み

広島事業所では社会貢献の一環として38年間、献血活動を年に2回推進しています。2007年5月(第74回)は、過去最高参加者数の237名(献血者率17%)を達成。広島県内企業ではトップクラスの実績です。今後も献血者率20%を目標に、啓発活動を行っていきます。



グループ会社との協力体制

グループ会社の各種制度新設・見直し検討は、コベルコ建機本社部門が協力して実施し、できる限りグループ運営を基本に努めています。また、神戸製鋼グループのカフェテリアプラン制度のシステムを利用するなど、神戸製鋼グループとも連携を深めています。

地球環境 保全活動 報告

コベルコ建機グループ だからできる、 環境への取り組み

昨年度、環境管理事務局を設置したことで、コベルコ建機グループは大きな一歩を踏み出しました。環境問題に関しては、これまでも事業所単位で取り組んできましたが、今後は会社の重要なコンセプトとして、その方向性を示すこととなります。コベルコ建機グループの社員は、すでに環境保全に関する強い意識を持っています。一人ひとりのそんな思いが環境にやさしい製品を実現させているといっても過言ではないでしょう。

現在好評を博している機械も、そのような意識が形になったものです。いい例が、2006年から2008年にかけて発表されている油圧ショベルの新シリーズです。燃費を20%以上削減、超低騒音化を実現したこの製品が地球環境保全に大きく貢献することは言うまでもありません。年々規制が厳しくなる中で、こういった開発は数年前から着手しなければ実現は不可能です。もしその時点で「環境よりコストだ」「もっとパワーが必要だ」と言っていたら、それがその製品のコンセプトになったでしょう。コベルコ建機グループの製品は紛れもなく、環境に配慮した製品を生み出そうという社員全員の熱い思いの賜物です。そして環境にやさしい製品は、必ず市場に受け入れられると確信しています。

全社環境統括 責任者 メッセージ

環境保全に対する意識の結集が、 大きなパワーとなる。

今まで地域単位だった環境問題を会社経営の根幹に置くために。環境管理事務局の責任者に就任した小坂敏夫CFO にその成果と今後の指針を聞きました。

環境に関する知識は、 地球人としての常識となる

人類は今、大きな舵取りを迫られています。環境問題に対して日本国内で混乱している場合ではありません。私たち自身が発想を転換し、行動に移す時が来ています。議論はやめて行動に移す、その後押しを事務局は積極的に行ってまいります。

環境保全に関する知識、行動はいまや地球人としての常識。その意味でも、社員教育の重要性が問われています。現在では、お客さまからも環境に

ついでに質問が多くなり、コベルコ建機グループの社員はそれに応えられるだけの素養を求められています。事務局では、そのための教育体系を作りながら一緒に環境保全について考えていきたいと思います。その延長線上に「さすがコベルコ」といわれる創造性に溢れる機械がまた生まれてくるはずです。

コベルコ建機グループは海外にも7つの工場を持っています。当然ではありますが、すべての工場が環境整備に気を配り、操業を日々行っています。この日々の一つひとつの取り組みの確かさを継続していくことが最も大切なことであると確信しています。



コベルコ建機株式会社
取締役執行役員CFO

小坂 敏夫

環境マネジメントの取り組み

コベルコ建機グループは、地球環境の保全を最重要課題のひとつとして捉え、環境マネジメントの考え方を積極的に取り入れています。事業活動や製品開発について環境保全の観点にのっとり活動を行い、継続的な改善を図りながら、より良い体制に整えています。

環境経営理念

コベルコ建機グループは「地球環境改善に積極的に取り組むことが全ての生命体に共通する最も重要な課題であり、より健全な地球環境を次世代に引き継ぐことが私たちの使命である」と認識したうえで、このかけがえのない地球を守るために、「環境経営基本方針」を制定し、事業活動のあらゆる面において環境に配慮する「環境経営」の推進に努めてまいります。

環境経営基本方針「グループ環境経営の実践による企業価値向上」

コベルコ建機グループは、グローバルな環境先進企業を目指して

- ① 環境に配慮した開発・生産活動
 - ② 製品・サービスでの環境への貢献
 - ③ 社会との共生・協調
- を実践することにより、社会的責任を果たすとともに、企業価値を高めます。

行動指針

① 環境に配慮した開発・生産活動

地球温暖化対策（省エネルギー型商品・循環型社会構築（リデュース・リユース・リサイクル）・有害物質削減（積極的取組）・環境負荷の低減（低騒音・低振動等）

② 製品・サービスでの環境への貢献

製品・サービスにおいて高い環境品質を継続・維持し、カスタマーサポート活動を展開して、地球環境の改善に積極的に取り組む。

③ 社会との共生・協調

● 環境関連法規・条例・協約を遵守し、社会との協調を進める。

● 環境関連情報を積極的に開示して社会との共生・協調を進める。

④ 全員参加による取り組みの展開

● コベルコ建機グループの一人一人は、企業活動のみならず、社会の一員として環境改善に積極的に取り組んで行く。

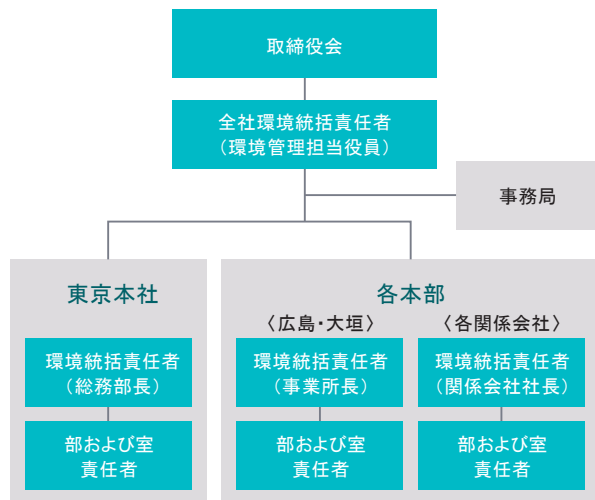
● 環境学習・教育を継続的に実施する。

⑤ リスク管理の徹底

環境管理体制の維持・強化とリスク低減に向け、常に責任の所在を明らかにし、組織的、計画的な取り組みを行う。

環境管理体制

コベルコ建機グループでは、東京本社をはじめ、各本部、部署、事業所などから環境統括責任者を選出。また、全社の環境管理を統括する環境管理事務局を設置することにより、環境管理体制の強化と全社的な環境マネジメントを実施しています。



環境リスク管理・環境監査

コベルコ建機グループは、広島事業所および大垣事業所を含む全ての生産工場および拠点に環境リスク管理体制を構築し（国内各拠点から順次構築予定）、環境監査の強化に努めています。大気、水質、振動、騒音、廃棄物、化学物質、エネルギー、危険物施設・設備等の各チェック項目を設定。各事業所において対象項目が関係法令等に定められた基準等を満たしているか、定期的な環境監査を行っています。

チェック項目	コベルコ建機広島事業所	コベルコ建機大垣事業所
大気	大気汚染防止法／悪臭防止法	大気汚染防止法／悪臭防止法（条例）
水質	水質汚濁防止法／下水道法	水質汚濁防止法／水道法
振動	振動規制法	振動規制法
騒音	騒音規制法	騒音規制法
廃棄物	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物の処理及び清掃に関する法律
化学物質	PRTR法	PRTR法
エネルギー	エネルギーの使用の合理化に関する法律 地球温暖化対策の推進に関する法律	エネルギーの使用の合理化に関する法律
危険物	消防法／高圧ガス保安法	消防法／高圧ガス保安法
施設・設備	大気汚染防止法／水質汚濁防止法 高圧ガス保安法／工場立地法	大気汚染防止法／水質汚濁防止法 岐阜県公害防止法／大垣市公害防止協定 高圧ガス保安法／工場立地法

環境管理規程

コベルコ建機グループでは、環境関連法令の遵守はもとより、環境マネジメントシステム規格（ISO14000シリーズ）の要求に則り、環境保全が企業の社会的責務であるとの自覚に基づいた上で、環境に十分配慮した事業活動を行っています。環境管理規程を定め基本的事項と本社部門および各事業所のそれぞれの果たすべき役割を明確にし、規程をもとに、グループ全体での環境活動を推進しています。

環境管理事務局の活動

環境管理事務局は環境管理規程に定めた役割をもとに、毎年活動項目を策定・計画し、グループ全体の環境活動を推進しています。

●各拠点での監査結果に基づく対応、指摘事項の改善

●環境にかかる内部監査

●年次環境報告書の作成

●環境報告、研修計画の推進

●関連会社等のISO14001認証取得支援

化学物質の管理と削減

●アスベスト対策

労働安全衛生法や廃棄物処理にあたる環境省の指針などに基づき、適正な代替化を進めています。建築物については飛散性石綿に対する対策工事をすべて終了しています。石綿飛散が懸念される吹付材・貼付材についても、計画的に対策を実施しています。

●VOC削減

VOC対策として、有機溶剤の少ない塗料への変更を進めています。2007年8月からは、VOC従来比33%減の地下塗料を採用しました。

騒音・振動の低減・防止

工事騒音・振動が周辺に及ぼす影響を調査し、そのデータに基づいて、送風機、圧縮機、破碎機などの既設騒音発生源に多面的な対策を実施しています。

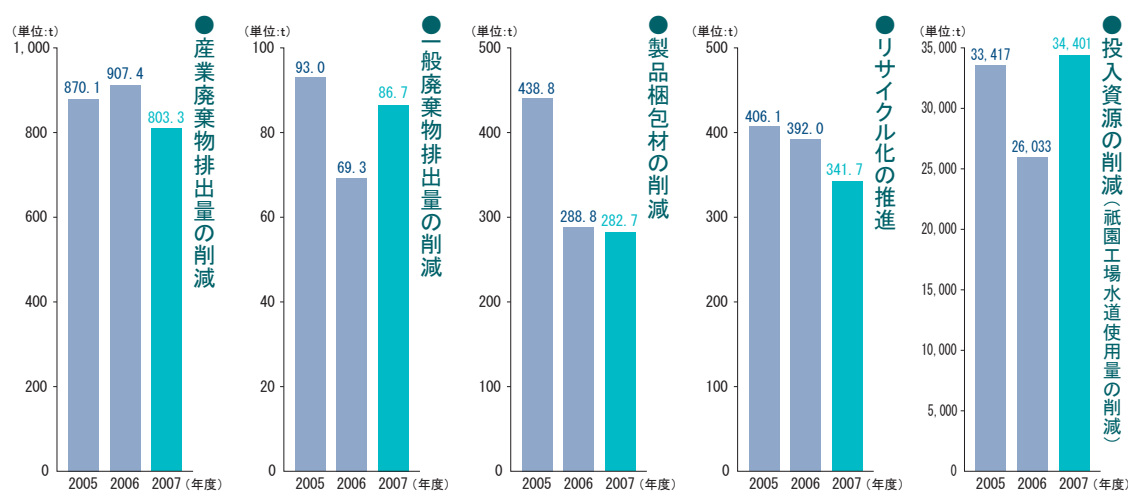
環境教育と資格取得の推進

コベルコ建機グループでは、広島事業所および大垣事業所で環境マネジメントシステム（ISO14001）の認証を取得。これをきっかけに、環境マネジメントやコンプライアンスの意識向上と理解を深めることを目的に、全従業員を対象とした環境教育を実施しています。また、社員には環境系資格の取得を奨励し、資格取得に向けた教育も行っています。

教育区分	テーマ	対象者	教育訓練方法	
		区分	教育内容	方法
環境への自覚	ISO14001概要	新入社員	JIS Q 14001環境マニュアル	講義
内部環境監査力量アップ	監査技法	内部環境監査員	環境マニュアル関連規程他	講義
下請負契約者	環境影響への理解	特定の 下請負契約者	環境方針の説明	講義 または手紙
緊急事態訓練 (模擬訓練)	緊急事態対応の訓練	各職場の代表者	緊急事態対応手順書	模擬訓練
環境への自覚	環境マネジメントの重要性	事業所長 部門長 環境管理委員	環境報告書 環境経営計画 (神戸製鋼グループ)	講義

廃棄物発生抑制とリサイクルの推進

廃棄物の発生を極力少なくするとともに、可能な限り再資源化するように努めています。今後も引き続き再資源化の技術開発を進めるなど、廃棄物の発生抑制を一層進捗させていきます。

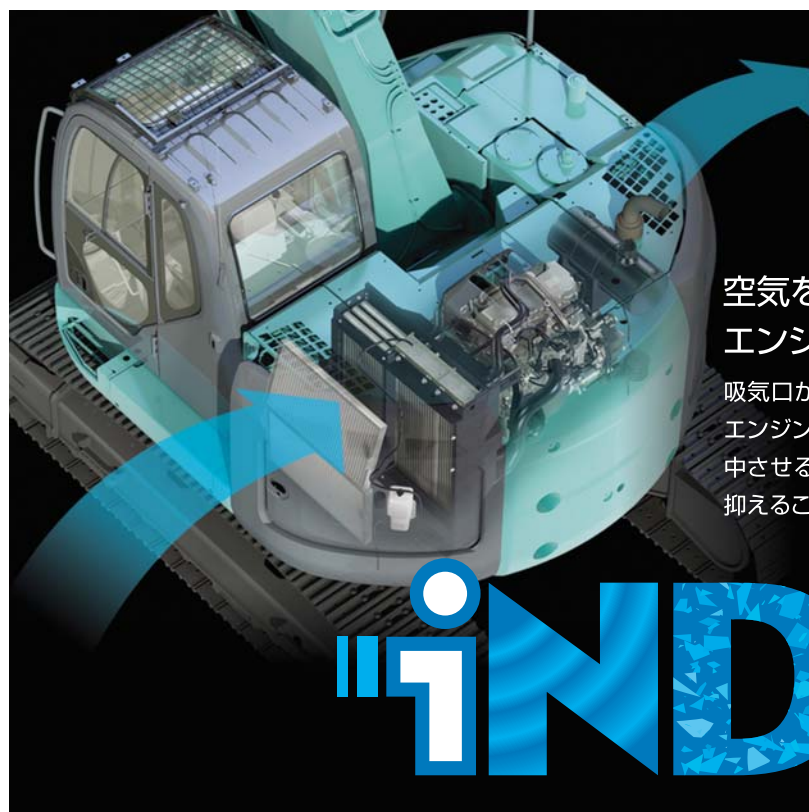


※2007年度は生産量急増のため、生産ラインの長時間稼働が必要になるなど当初の想定を超える状況となりました。これに伴い、廃棄物排出量も一部増加したと考えられます。

環境への対応とパフォーマンスの向上。新システムの開発

環境への優しさ・快適性と、作業効率を追求したパフォーマンス。それらのニーズに応える新発想のシステムが誕生しました。

「iNDR」は、極低騒音とイーザーメンテナンスを実現させたエンジン冷却システム。「iNDR」を搭載した油圧ショベルは各現場で多くの評価をいただいています。コベルコ建機グループは、環境保全に配慮した建設機械の供給のために、努力を重ねています。



空気を閉じ込めながら通気させる新発想
エンジン冷却システム「iNDR」

吸気口から排気口までを1本のダクトに見立て、その内部にエンジンルームを設ける。隙間をふさぎ空気の出入口を集中させることで、運転音の洩れも、ホコリの進入も最小限に抑えることができました。

iNDR Integrated
Noise & Dust
Reduction
Cooling System

【ホコリを寄せ付けない】
● iNDRフィルタで信頼性向上
60メッシュの波型スクリーンが吸気中の微細なホコリをキャッチ。冷却性能を維持し、故障原因の汚れも大幅に減少します。

【簡単メンテナンス】
● 日常清掃が不要なクリーニングユニット
お手入れが圧倒的に簡潔になりました。わざわざ定期的点検・清掃に代わり、iNDRフィルターの汚れをチェックするだけです。

超低騒音を大幅に下回る 95dB(A)を達成!

機械側面での騒音差は、
実に10dB!

新モデル ●
旧モデル ○

● iNDR の原理・構造



排気ダクト
※人に風を当てない排風



吸排気口はカウンタ
ウエイトと体構造

騒音は、エンジンルームの音が直接、吸気口から漏れて発生します。iNDRは、音源と空気の道を直線上に配置しない工夫で、超低騒音の規制値

をはるかに超える静かさを実現。騒音が特に大きい機体左側面では、実に10dBもの低減に成功しました(従来機SK235SR比)。

超低騒音を極めた
極低騒音

音を封じ込め、熱は逃がす… 「風の道」方式で難題をクリア

油圧シヨベルの低騒音化に向けたプロジェクトがスタートしたのは、2001年の春。目標はマイナス10dBだった。これは、人が感じる音量を半分以下にするということ。無謀ともいえる数字である。入社以来30年間、低騒音化に注力した中島はその背景を熱く語る。

「騒音規制が厳しくなっている事情もありましたが、あえて高い目標を設定したのは私たち技術者の意地。低騒音No.1の座をどうしても奪還したかったです」。1990年代前半、神戸製鋼の建設機械は業界トップの低騒音化技術を誇っていた。その後、他社の追い上げを許したのは、当時、低騒音に対するニーズは低く、コストが削られてしまったからだ。その時の悔しさが彼らを駆り立てた。



中島 一 (なかしま はじめ)
開発生産本部要素開発部
プロジェクトグループ シニアマネージャー
iNDrでの役割:要素開発取りまとめ役

「騒音の元凶はエンジンと冷却ファン。静かにするには、音が洩れないように封じ込めれば良いのですが、空気が通らないとオーバーヒートを起こします。そこで考えたのが『風の道』方式です」。こう振り返るのは、低騒音化に関わる設計を主導した上田員弘だ。

上田 員弘 (うえだ かずひろ)
開発生産本部要素開発部
動力系開発グループ マネージャー
iNDrでの役割:動力系開発担当



この「風の道」方式では、吸排気口とエンジン室を結ぶ空気の通り道をダクト(通風管)に見立てる。通気を確保しながら、壁にぶつかると減衰する音の性質を踏まえてダクトを折り曲げる。不要な隙間をふさげば、大幅な騒音低減が期待できる。

上田は神戸製鋼機械研究所のスタッフと実験を繰り返した。2年に及ぶ試行錯誤の末、このシステムを積んだ改造機を作り上げたのは2003年の夏。騒音は従来機より9.4dB低減した。上々の結果に、スタッフと経営陣から歓声が上がった。

その頃、ラジエーターの目詰まりを手軽に掃除できるフィルターの開発が進んでいた。低騒音化も防塵も吸排気に関わるテーマだけに、両方は自然に結びついた。それがiNDrという発想だった。

Development Story

iNDr開発ストーリー

目指せ! マイナス10dB

苦闘の果ての「極低騒音」

コンパクトなSRモデルにiNDrを「ねじ込む」

iNDrはしかし、いきなり壁にぶつか。最もスタンダードで生産台数が多い機種、コンベンショナルモデル(コンベ)への搭載が取りやめとなり、狭い現場で使われ低騒音化が重視されるSRモデルへの限定搭載となったのだ。方針転換で、また別の課題が生まれる。機種担当としてコンベの設計を仕切る斉藤重昭は言う。「iNDrにはコンベにそぐわない要因が多すぎました。最後は苦渋の選択だったのですが、次期コンベの核として期待を集めていただけに、全社に衝撃が走りましたね」。

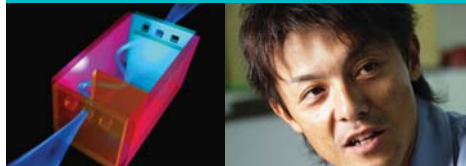


崎谷 慎太郎 (さきたに しんたろう)
開発生産本部生産設計部
装備系設計グループ マネージャー
iNDrでの役割:装備系開発担当

と同じ。そこに折り曲げたダクトやフィルターを加えるのは至難の技。もう無理やりねじ込む感覚でした」。中でも一番の難題は、ボディを安定させるカウンターウェイトのスペースだった。

装備担当の崎谷慎太郎は遠い目で言う。「中からはパーツに圧迫され、でも外に出張らせれば良いわけでもない。ならばとカウンターの縦幅を最大限に伸ばして、そこに吸排気口を開けることに。結果的にiNDrを強調したデザインになったことも含め、このアイデアは一つの突破口になりました」。

2005年秋、予定より1年ほど遅れてようやく設計を終えた試作機に、設計の誤りが判明。わずか2dBしか静かにならず、また振り出しに戻った。最終的に「極低騒音」機と呼ぶに足るマシンが完成したのは翌年、6年間に及ぶ悪戦苦闘の末だった。「一番感動したのは、現場で使っている方からほめられたとき」と微笑む村上に、みな一様に深くうなずく。次なる目標を目指して彼らはもう走り始めている。



村上 正明 (むらかみ まさあき)
開発生産本部商品企画室
マネージャー
iNDrでの役割:SRモデル機種担当

斎藤 重昭 (さいとう しげあき)
開発生産本部シヨベル開発部
中大型シヨベル開発グループ 長
iNDrでの役割:
コンベンショナルモデル機種担当

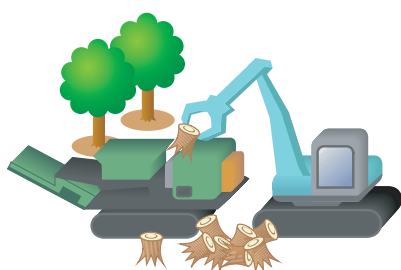


資源循環型の建設業界を担う、環境リサイクル機械

地球環境の保全を目指す中で、建設機械メーカーの役割と責任も日々大きくなっています。コベルコ建機グループは資源リサイクルを推進するため、環境対応型の建設機械の開発に力を入れてきました。解体作業の現場をリサイクル過程の一部と考え、独自に開発した環境リサイクル機械を生かして、さまざまな形で地球環境の保全に貢献しています。

さまざまな分野で活躍するコベルコ建機グループの 環境リサイクル機械

資源リサイクル機械



産業廃棄物のリサイクルに貢献

コベルコ建機グループは、作業現場の機械化・快適化・安全化に貢献しています。実績と信頼、豊富な技術蓄積で、産業廃棄物のリサイクル機械の開発およびラインナップの拡充に力を注ぎます。

■資源セパレート仕様 [SK70SRP1]

ゴミやホコリでオーバーヒートしやすい廃棄物処理現場で威力を発揮する防塵仕様機。バケット作業やベースマシンとして活躍します。



■後方超小旋回ショベル [SK235SRD]

防塵機能(iNDR)を標準搭載。クーリングユニットなどの性能低下を防ぎ、最適ヒートバランスを維持。静かで、日常点検作業も容易。



金属リサイクル機械



リサイクルフローをトータルサポート

国内外でますます重要度が増している金属スクラップのリサイクル。生産品質、処理能力、環境対策など、多視点からの高度な要求に応え、処理工程・流通形態を深く知ることで実現したラインナップです。

■マルチ解体機 [SK135SRD]

2種類のニブラーの選択で、自動車から家電品、その他複合物などの解体に使用可能。手作業だった解体・仕分けを全て1台で担います。



■マグネット仕様 [SK260DLC]

アーム先端のマグネットは、強い磁界で鉄スクラップの仕分けや積み降ろし作業に最適。天井移動式に比べ、作業のサイクルタイムを大幅短縮。

建設リサイクル機械



各役割で最大限のパフォーマンスを発揮

建設副産物を再利用できるように、分別解体を効率化させる建設機械です。早くから建造物の解体作業をリサイクルの一環として捉えてきたからこそできた、高性能・高信頼マシンの数々です。

■超ロングアタッチメント

高所で効率的で安全な解体作業を可能にするビル専用解体機。高さ65mの伸長はギネス認定。



■木造家屋解体専用機 [SK30UR]

優れた狭所作業性、広い動作範囲が家屋解体に最適。狭い民家でも余裕の超小旋回機ベースを使用。



環境展への出展

毎年、東京ビッグサイトで開催されるNEW環境展。地球環境の保全活動に取り組むコベルコ建機グループも、新技術・新発想を駆使した環境リサイクル機械を毎年出展しています。年々増加する来場者の方々からも好評をいただき、励みになっています。

新技術の開発で一步先を目指す地球温暖化対策

コベルコ建機グループは、大幅な燃費の低減や排ガスの抑制などを可能にしたさまざまな建設機械を誕生させ、CO₂排出量の低減に努めています。国内建設機械業界で最初にオフロード法適合となったアセラ・ジオスペックや、ハイブリッドショベルの開発、オートアイドルストップ機能の装備など、地球環境に配慮した建設機械の開発に挑戦し続けています。

次世代電子制御エンジン

エンジン開発を4部門に分け、動力・油圧制御・構造・電気制御・装備の5つの要素開発グループが研究開発し、トータルで20%の燃費削減を実現させました。コンピュータで全体をシミュレーションする「ベンチ装置」を導入で、具体的な燃費改善への指示や試作が可能になり、エンジンメーカーと共同で開発を進め、関係を強化できたことも、次なる研究開発への大きなステップとなっています。



田宮賞受賞

田宮賞とは、(株)神戸製鋼所第5代社長故田宮嘉右衛門氏の遺徳を記念した制度です。コベルコ建機(株)は、(株)神戸製鋼所技術開発本部と共同で行った「省エネ型油圧ショベルの開発と商品化」で、第49回金賞を受賞しました。油圧ショベル市場で、他社を圧倒する燃費性能の製品を開発しブランド価値を高め、販売シェア拡大につながったことや、CO₂削減効果による地球環境保全に寄与したことが高く評価されました。これからもより良い製品づくりに努力をしていきます。

アセラ・ジオスペック



2006年6月、コベルコ建機グループは油圧ショベルのフルモデルチェンジを行い新シリーズ化。国内建設機械業界で最初にオフロード法適合となりました。従来機に比べて燃費は最大20%改善、騒音や振動も大幅に低減した環境にやさしいショベルとして注目されています。

■アセラ・ジオスペック [SK220]

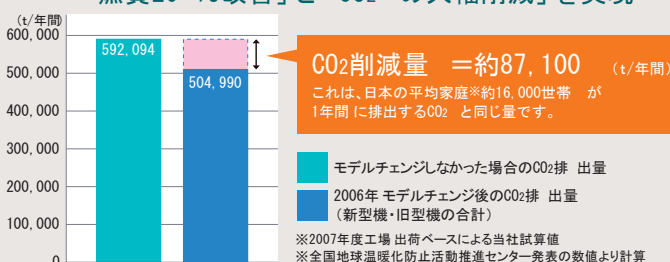
- 従来機と同じ燃料消費量で **作業量8%向上**
- 従来機と同じ作業量で **燃費20%低減**
- クラスNo. 1のパワフルな掘削力

最大アーム掘削力 最大バケット掘削力
102kN{10.4tf} 143kN{14.6tf}



※短時間のパワーアップ機能で10%パワーアップ可能

「燃費20%改善」と「CO₂の大幅削減」を実現



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

コベルコ建機グループはチーム・マイナス6%に参加しています。

コベルコ建機グループでは「チーム・マイナス6%」の環として、環境省が推奨するCOOL BIZ / WARM BIZを継続して実施しています。ポスターを本社各事業所へ配布し、室温を夏季は28℃、冬季は20℃に保ち、空調設備のエネルギー消費を抑えCO₂排出量削減につながるよう働きかけも行っています。



COOL BIZ / WARM BIZ



CO₂削減のため、オフィスの蛍光灯やパソコン、プリンターなど節電タイプの機器を選定するのはもちろんのこと、電源をこまめに切ったり、コンプライアンスを加味した上で基準を設け、その範囲内で裏紙を積極的に使うなど、社員一人ひとりがトータルのごみ排出量削減に努めています。また、ショベルに「チーム・マイナス6%」シールを貼り、ユーザーへ省エネ運転の働きかけも行っています。

省エネ意識の向上

2006年に『京都議定書』で定められたCO₂排出量の削減目標6%は地球全体の課題となっています。これは建設機械メーカーであるコベルコ建機グループにとっても重要な課題と捉えています。『チーム・マイナス6%』への参画はもとより、営業車のハイブリッドカー化など、独自にさまざまな活動を展開しています。

社会・地域活動報告

思いを行動へつなげるコベルコ建機CSR基金

国内外で、さまざまな社会貢献活動を支援・実施するべく、2006年度に設立した「コベルコ建機CSR基金」。社内公募し、コベルコ建機グループのCSR活動として、理念に合致した活動に対して支援しています。

1

促進小学校 学費・昼食代支援

2006年度に引き続き、2007年度も同小学校へ通う生徒たちへ、学費・昼食代の支援を行いました。支援対象の生徒は、特に経済的ハンディを持った生徒ですが、訪問した際にはそうした背景を全く感じず、非常に元気が一杯でした。この活動を基点として、成都神鋼建設機械有限公司からも工場見学や図書室の設置、年越し用品の贈呈などさまざまな活動が行われました。



2

西南交通大学 神鋼奨学金制度

2007年度も厳しい審査に合格した優秀な学生を対象に本奨学金の授与を行いました。授与は大学側から式典として扱われ、同時に座談会も開催されました。座談会では、神鋼奨学金に対する学生たちの思いや、日系企業への質問等が活発に話されました。この他にも、成都神鋼建設機械有限公司では、日本語スピーチ大会や和食おでん大会など幅広い活動を実施しました。



4

アンコールワット復興を支える
カンボジア人の育成

「カンボジア人による、カンボジア人のための、カンボジアの遺跡修復」に共感し、2006年度に引き続き、上智大学アンコール遺跡国際調査団の、アンコールワット修復に関わる人材育成を支援しました。



5

「石見神楽」の伝承・保存

島根県西部石見地方に伝わる石見神楽は、近世以前に源流が生まれたといわれています。特に舞形・所作の伝承や、流行に流されず先人の伝えを今も色濃く残しているのが特徴です。

コベルコ建機西日本（株）の社員がその神楽団に所属しており、CSR基金による支援の環として「面」や「がっそう」の購入費を支援しました。



8

高校生海外交流・
育成のための奨学金

財団法人エイ・エフ・エス日本協会（AFS）を通して留学する場合に、高校生海外交流・育成のための奨学金として留学費用の一部を支援しています。対象はコベルコ建機グループ従業員の家族です。（2008年4月現在）



9

救命率を高めるAED設置活動

●品川区社会福祉協議会へのAED寄贈

2008年3月、品川区社会福祉協議会と同協議会のふれあい作業所の2か所に、AED（自動体外式除細動器）を寄贈しました。一般の方々が多数訪れる社会福祉協議会に、AEDは設置されていませんでした。また、障害者の方が活動しているふれあい作業所では、万が一の場合に備えてAED講習を定期的に行っているもののAEDは設置されておらず、両施設ともに必要性を感じていました。

コベルコ建機グループでは全国の拠点にAED設置を推進中で、AEDの有効性・重要性を認識していることから、両施設のAED設置を支援したいと思い寄贈することになりました。

●コベルコ建機グループのAED設置

コベルコ建機グループでは、社員および関係者、周辺住民の安全を確保するために、全国の拠点にAED設置



3 フィリピン孤児院の運営・活動維持の寄付金

前年度に引き続き、2007年度もフィリピンの孤児院に対し、飲料水の供給設備・子ども用ベッド・楽器等の購入支援を行いました。現地からは、子どもたちの喜ぶ姿が写った写真がたくさん寄せられ、関係者一同大変喜んでいました。



7 障害者の社会参画を支援する事務所兼喫茶店の運営

神戸のNPO法人「ひやしんず」が運営する喫茶店「Caf'eほてと」は、障害者の社会参画を目的として設立されました。コベルコ建機グループは、この「Caf'eほてと」への支援を続けています。最近では喫茶店経営に加え、一人住まいの老年寄りを中心に、弁当の配送も始めました。ただ配るだけでなく、あいさつや雑談をすることにより、地域の人をつなぐよい接点の場を設けることができました。



6 熊本での水上バイクによる地域活動

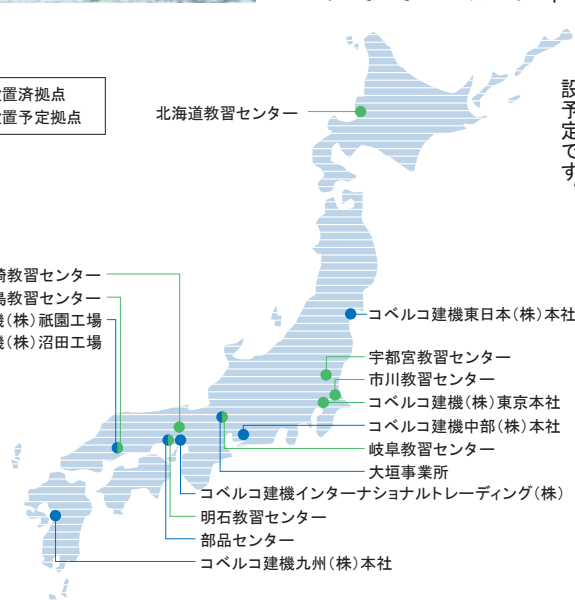
コベルコ建機九州(株)の社員が所属するチームシーブリーズと協力し、河川の清掃や各種水上イベントでのパトロール・レスキュー活動に参加したり、近隣住民と共に水上バイク体験のイベントを開催したりしています。仕事の傍ら、イベントの準備を進めるのは非常に大変ですが、参加された子どもから大人まで、皆さんに喜んでいただけることが何よりもうれしく、私たちのやる気の源となっています。



- AED設置済拠点
- AED設置予定拠点

尼崎教習センター
広島教習センター
コベルコ建機(株)祇園工場
コベルコ建機(株)沼田工場

北海道教習センター



置を推進しています。また、社員を対象にAED操作を含めた救命技能教育を実施しています。現在設置されているのは8か所。2008年度は、さらに8拠点到増設予定です。

人と人の温かい交流を図る、さまざまなCSR活動

Topics トピックス

『東京本社前 花壇の手入れ活動』

しながわ環境大賞受賞

2006年7月から継続して行っている『東京本社前 花壇の手入れ活動』が“しながわ環境大賞”を受賞しました。しながわ環境大賞とは、品川区において環境保全に関する活動実績があり、その功績が顕著であると認められる団体または個人を表彰するものです。活動のよびかけは社内イントラや掲示板での参加者募集。自主的に集まった社員が花壇の清掃や水まき、花植えなどを行っています。賞の存在は知らずに集まった仲間ですが、近隣の方々や別の企業の方と一緒に活動していることを高く評価いただき、受賞は今後の励みにもなっています。

また、この『東京本社前 花壇の手入れ活動』の一環として年2回土曜日に開催される大崎地区ボランティア主催の『お花いっぱい大崎』にも参加しており、花壇づくりを通じて、近隣の方々とのコミュニケーションを図る良いきっかけにもなっています。



広 島 事 業 所 の 活 動

東 京 本 社 の 活 動



広島市こども文化科学館が主催する、一般の方対象の“大人の科学談話室”。その講師として、開発生産本部長が招かれました。「暮らしを支え、暮らしを創る建設機械」と題し、油圧制御の仕組みや建設機械業界の動向などの話から、ギネス認定されたSK3500Dやハイブリッドショベルの紹介など幅広く説明。参加者は大変熱心に耳を傾けて、時間いっぱいまで質問が続きました。

広島大人の科学談話室

コベルコ建機（株）東京本社では、近隣の歩道に設置されている花壇の清掃や手入れを実施しています。ここは、社員の通勤路にもなっているため、きれいな花を見て、出社前には気持ちよく落ち着き、退社後には和まされたりもします。活動を通じて、普段の仕事では接点のない方々とも接する機会も得ました。2007年度には、特に積極的に参加した社員を対象に、フラワール賞を授与しました。

花壇の手入れ

2004年5月からコベルコ建機エンジニアリング（株）で会社周辺のごみ拾いなどの美化運動に取り組んでいます。休憩時間の雑談から始まった、たった3人での活動でしたが徐々に他部署にも広がり、今では近隣企業にも波及しています。ごみ拾いは自主参加で週1回行い、近隣住民とのコミュニケーションも生まれるようになりまし。うれしいのは、約4年の間に会社周辺が見違えるようにきれいになり、美化運動の輪が地域社会に広がったことです。

今後は、近隣企業と合同で活動範囲を広げ、公園掃除などを検討中です。



コベルコ建機での美化運動



活動の場所

近隣保育園児の見学

明石教習センター

2008年3月、近隣の保育園の子どもたちを招き、見学会を開催しました。構内を見学後、センター長が静止しているSK30を指し「乗ってもいいよ」と言うと、「キヤー」と歓声があがり、皆走って機械に近寄りました。何回も順番待ちしながら運転席に座り楽しそうにレバーなどを触っていました。子どもたちの笑顔がとても印象的でした。



近隣小学校写生大会

明石教習センター

2007年11月、近隣の小学校の1年生210名を招き、第2回目となる写生大会を開催しました。今回は課外活動の一として、大型重機の写生を通じて社会の仕組みを知ってもらうのが目的です。初めて身近で見る大型重機に圧倒されながらも熱心に描く子どもたちの姿が印象的で、昨年に引き続き、地域住民と接する良い機会となりました。



「HIRO学園」交流会

岐阜教習センター



2007年11月、ブラジル人学校「HIRO学園」の小学生29名が訪れ、写生大会とミニショベルの試乗を行いました。重機を見ながら1時間くらい絵を描いた後、静止したミニショベルに試乗。レバーなどに触ってもらい、運転気分を味わってもらいました。全国初のブラジル人単独外国法人として岐阜県に認可された「HIRO学園」にとって、このような交流機会は初めてだったそうです。今後も継続し、日本とブラジルの国際親善に役立ちたいと願っています。

養護学校生徒の勤労体験

明石教習センター



2007年11月、養護学校生徒が勤労体験に來られました。残念ながら今回は体験まで至らず、見学のみにとどまりました。2008年2月には中学部の生徒3名が訪れ、引率の先生がフォークリフトの運転体験するのを熱心に見ていました。

活動の場所

花いっぱい運動と美化活動

地域の方が行き交う大垣事業所周辺の道路際に、花と緒にいろいろなメッセージを添えた「花いっぱい運動」を展開しています。正門をはじめ、駐車場、通路など、次々と設置場所を増やし、来社されるお客さまの目にも留まる機会が増えてきています。あいさつをはじめ、募集したメッセージをランタナーに貼り付け、花の種類を書いて、土入れから苗植えまで丁寧に行っています。花植え参加ポスターを見て、参加メンバーも序々に増え、四季の花をどんどん増やしていくと、コソコソ活動しています。

また毎週末の昼休みには、ごみ拾いを実施しています。「河川クリーン作戦」とよばれる大垣市主催の清掃活動にも積極的に参加して、ボランティアに努めています。



親睦会



「桜が満開となる春」「紅葉が始まる秋」の年2回、大垣事業所では所内で働く人とその家族を集めて、恒例のイベントを行っています。事業所内では「屋外ミーティング」と呼ばれ、日ごろの慰労とコミュニケーションを目的に、盛大にバーベキューをします。その日の作業終了後に集まり、乾杯の音頭とともにスタート。一斉に食材を焼きはじめ、参加者全員で鉄板をつきます。春は桜を見ながら、秋は紅葉を楽しみながら、外でにぎやかに食べるのは格別においしいもの。大垣事業所の伝統行事として、親睦を深める良い機会になっています。これからも継続的に活動していく中で、CSR委員会としても全面的に協力していきます。

成 都 神 鋼 建 設 機 械 有 限 公 司 (中 国) の 活 動

■ ■ ■ ■ ■ 促進小学校

成都神鋼建設機械有限公司 工場見学

2006年度から支援を行っている同小学校を、2007年4月に工場見学会へ招きました。生徒の多くは、初めて町を出る子ばかりで、車に乗るのも初めて。ほとんどの生徒が車に酔って大変でしたが、工場に到着すると機械に魅了され、元氣になりました。工場見学後は、ファーストフード店で昼食を取り、動物園へ。本の中でしか見たことがない動物を直接見ることができて、とても喜んでいました。

図書室の設置



2007年9月に、学校に図書室を作りました。教科書以外に本がなく、買うこともできない状況を知ったからです。建物を新たに建設することはできないた

年越し用品の贈呈

2008年1月、旧暦で祝う正月に向けて、33名の生徒へ年越し用品を贈呈しました。中国では食材の価格が高騰したので、今回は保存のきく食材をたくさん用意しました。

恒例となった数々の交流を通じて、子どもたちとの関係も深まり、感謝の手紙

当日の活動は、地元のマスコミにも報道されました。普段、町を出ることがない子どもたちにとって、こうした活動を通じて得る情報や体験が良い刺激になると信じながら、今後も引き続き実行していきたいです。



め、先生の事務室を改築して図書室にすることにしました。机、椅子、図書を準備し、コベルコ建機(株)からは初等向けの日本の図書が寄贈されました。

開設と同時に、地元のマスコミに取り上げられ、中国政府の教育局員が成都神鋼での活動を視察し、大変感心されました。今では、この図書室は授業カリキュラムに取り入れられ、本を通してさまざまな知識を吸収しています。生徒たちは皆、この図書室を使った授業が楽しみだそうです。

もいただきました。

「自立、自尊、自信」を持って、前向きな態度で学業を成就させます」との強い気持ちに関心すると共に、私たちの果たす役割について改めて感じました。



■ ■ ■ ■ ■ 西南交通大学

神鋼奨学金制度

2006年度から継続して実施している「神鋼奨学金制度」。2007年度はこの制度を通じて多彩な活動が行われました。神鋼奨学金制度は、本人が申請をして学院から推薦を受けた後に、さまざまな審査を経て、それに合格した学生だけが受け取ることができる非常にレベルが高い奨学金制度です。授賞式典では学生から、中国語と日本語で感謝の気持ちが伝えられました。一生懸命考えられ

「神鋼」和食祭おでん大会



新たな取り組みとして、同大学と成都神鋼建設機械有限公司が共同で、日本文化交流を目的とした和食祭を開催しました。今回選んだテーマは「おでん」。調理

「神鋼杯」日本語スピーチ大会

2007年末には日本語スピーチ大会を開催しました。テーマは自由ですが、日本語でスピーチすることがルールでした。日本に行ったことのない学生たちですが、日本語のスキルが、スピーチできるレベルに達していること自体が、非常に素晴らしいことだと思いました。



た言葉の端々に、環境の厳しさとそれに負けない前向きな姿勢が表れていて、同大感激しました。式典後には座談会も行われ、和やかな雰囲気の中でさまざまな質疑応答が、日本語と中国語を交えながら活発に行われました。



するところから、日本食に親しんでもらうつもりでしたが、実は誰も作り方を知らなかったので試行錯誤で作りました。当然、味はおいしいとは言いがたい代物に。しかし、和食におでんがあることや、作ったことのない料理を皆で作ることの喜びが参加者全員に伝わったことは、文化交流の環境として大変貴重な時間となりました。その後、カラオケ大会も行われ、空のベツボトルをマイク代わりに歌ったり、踊ったりと、非常に楽しい時間を過ごすことができました。

CSR賞制度

CSR賞とは2007年度から開始した制度で、社会環境の視点から顕著な功績や貢献を行った組織、団体、人物を表彰するものです。その活動を称え、今後も一層活動に励んでいただけるように、また、こうした活動を広く展開することにより、他の取り組みの模範となり、活性化につながることを目的として、本制度を設立しました。

制度設立に伴いCSR表彰規程を制定し、客観的かつ定量的に評価できる表彰対象事項を決め、適切に運用できるようにしました。事務局にて、当該年度における事項の選定を行い、功労者受賞者を決定し、毎年10月の創立記念式典で表彰します。

表彰対象事項は、以下の4つです。

●事業展開エリアにおけるCSRへの取り組みにおいて、環境対応、地域貢献、人材育成などの顕著な功績をあげたこと。

●CSRの取り組みを通して、当社および当社グループの名誉、またはブランドアップとなるような功績をあげたこと。

●産業災害やその他の災害を未然に防止、またはこれらの災害に際し人名救助をしたこと。

●右記に準ずる事績に該当すること。

昨年はCSR賞として、表彰状、メダル、盾を贈呈いたしました。



2007年度CSR賞 受賞 !

促進小学校(中国)
施設修繕と小学生への学費支援

●受賞者…成都神鋼建設機械有限公司

窓ガラスの設置と、経済的なハンディを持つ生徒の学費と昼食代の支援をしました。また、冬には古着や手袋・マフラーを贈り、旧正月には年越し用品の食料、教材などを届けました。年間を通じて支援で生徒たちとの交流も深まっています。



●受賞者…コベルコ建機九州(株)他
現場復帰を目指すオペレータのために義手対応シヨベルを開発。健康者と同じ効率で作業ができるように、操作レバーの位置、ストロークの範囲、レバーの重さ・軽さなど徹底的にテストを行い、細かな調整を繰り返して、やっと完成しました。多くの方の協力と、そのノウハウを活かして、既に2台目も納入。「健康者と変わらない作業ができる」と褒めていただき、今は達成感と感謝の気持ちでいっぱいです。



河川の清掃と
養護学校生徒への水上バイク体験等

●受賞者…コベルコ建機九州(株)熊本営業所、コベルコ教習所(株)熊本教習センター

社員所属のチームシーブリーズと協力し、河川清掃をはじめ、水上イベント時のパトロールやレスキュー活動を実施。また、養護学校生徒に水上バイクやシヨベルの搭乗体験を行いました。コベルコの建設機械の大ファンもいて、「夢のようだった」と喜んでもらいました。受賞により多くの社員に私たちの活動やCSR活動の大切さを伝えることができたのは大きな成果でした。



義手対応シヨベルの開発

コベルコ教習所の活動

●受賞者…コベルコ教習所(株)

近隣の小学校をシヨベルの写生大会や施設見学へ招待したり、一般の方を対象に自転車の交通安全教室を開催したり、地域に密着した活動を行いました。「将来シヨベルに乗ってみたい」とか、「ありがとう」という言葉を聞くと、喜びと共に社会的責任も強く感じ、こうした小さな活動の継続が当社の信頼につながるのだと実感しました。受賞への感謝と共に、地域へ働きかけをさらに進めたいと思っています。



社員から見たコベルコ建機グループのCSR活動

コベルコ建機グループのCSR活動を担ってきた社員が、活動を通じて感じた思いをご紹介します。

社員や地域住民の熱意に感激。

地域に密着した

活動を進めていきたい。



奥田 耕治 (おくだ こうじ)
コベルコ建機株式会社
総務部総務グループ アシスタントマネージャー
●CSRでの役割: 社内外との
パイプ役として活動

私は2007年7月に現在の部署に異動し、初めてCSRに携わりました。それまでは「いかに機械を売るか」が最大の関心事であり、正直CSR活動とはあまり縁がありませんでした。だからかもしませんが、最初は地域貢献活動に参加したり、啓蒙活動を実施したりするとき、少し照れくさかったことが印象に残っています。しかし、社員の皆さんの積極的な参加姿勢やCSR推進Gr、CSR推進委員の方々の熱心な姿に触発され、関心がどんどん増してきました。

立場上、近隣ボランティア団体の皆さんや品川区の住民の方と接することも多いのですが、皆さんを見ていて感じるのには「自分たちの町をもっと良くしたい」という強い思いです。大崎に本社を置くコベルコ建機(株)の一員としても、今まで以上に地域に根づいた積極的な活動を行い、より良い町づくりに貢献したいと考えています。地域の皆さんと一緒になって、未来を考えていきたいと思っています。

今後は、大崎地区だけでなく品川区にまで活動範囲を広げ、そしてコベルコ建機グループ全体に、地域の人と一体になった活動の和が広がるように努力していきます。

手ごたえや成果を体験し、 自発的な活動が 生まれたことがうれしい。



澤 乃里子 (さわ のりこ)
コベルコ教習所株式会社
業務部 係長
●CSRでの役割: 同社のCSR担当
として活動

私は、教習所のCSR担当として、全国教習所へのAED設置やHIRO学園・養護学校との交流などに携わってきました。このような活動は命令されてやることではなく、自発的な思いに支えられるべきものだと思うので、社内での呼びかけや啓蒙活動のときにも、「押し付けがない」ということに特に気をつけてきました。実際、子どもたちとふれあうことで自然にみんなの顔に笑顔が宿り、「ありがと」「さいました」と言ってもらうことでみんなのやる気生まれたと思います。手ごたえを体験することで、社内にCSR活動が広まったのだと思っています。今では、CSR基金を申請するにはどうしたらよいのか？などの質問が来るようになり、自発的に「何か社会貢献できることがないか」と考える環境ができてきたことを大変うれしく思っています。

まだまだ課題はあると思います。しかし、「みんなが一人ずつできることを、できる範囲で」と考えると、今でもできることはたくさんあり、とにかく継続的にやっていくことが本当に重要なことです。そして信頼され、「さすがコベルコ」と言っていただけのような企業にすることが私の目標です。

いろいろな人から指導を 受けながら多くのことが 学べたCSR活動。



松浪 俊治 (まつなみ としはる)
コベルコ建機株式会社 大垣事業所
生産管理室 マネージャー
●CSRでの役割: 同事業所の
取りまとめ役として活動

私は大垣事業所のCSR推進委員として、大垣事業所とCSR推進Grとのパイプ役だけでなく、親睦会や花いっぱい運動など大垣事業所独自の取り組みにも携わってきました。CSR推進委員に選ばれた当初はCSRの知識が全くなく、「とにかく自分たちができることは何か？」と考えることからスタートしました。そして生まれた、花いっぱい運動。これは単純に「自分たちの職場を美しくしたい」との思いから計画したのですが、賛同していただける方も徐々に増え、今では『もつと花を植えたい』との声が上がるほどになりました。貴重な昼休みににもかかわらず、多くの従業員の方が参加してくださっていることは、私にとっても大変うれしいことです。また、花に関して全く無知な私に、叱咤激励しながら年配の方からご指導いただいたことは、花の知識だけにとどまらず、人生の先輩としての含みがあり、いろいろな意味で大変勉強になりました。私自身、今はCSR活動が楽しく、皆さんと共に成しとげる喜びも加わって、「待ち遠しい」とさえ思えるようになりました。そして、この和がもっと広がることを期待しています。



荒木 治郎 (あらき じろう)
コベルコ建機株式会社
総務部人事グループ長
●CSR での役割: 大垣事業所および
社員教育担当として活動

日々の積み重ねが心に変化を。 地道な活動を 継続していくことが大切。

私はCSR活動の立ち上げ時から関わっていますが、現在はCSR推進Grの中でも大垣事業所と社員教育を主に担当しています。CSR活動を始めた当時は、皆さんがCSR活動に関心を持っていただけか不安もありましたが、日を追う毎に少しずつ全社的にCSRを理解、取り組んでいる社員が増えてきたことが、CSR推進Grの一員として何よりうれしいことです。また、日々の地道なCSR活動や地域社会貢献が、社会環境報告書としてグループ社員の皆さんや一般の方々へ情報配信できたことは大きな成果だと思っています。

今日では誰に指示されるわけでもなく、マイカップ運動やゴミ分別等に対して違和感なく皆さんが実施している様子を見ると、私を含め社員の皆さんの気持ちにおいても何か良い変化があったのでは?と感じています。これは、日々の積み重ねの賜物であり、このような取り組みがいかに大切なことかと大変勉強になりました。
身の丈にあった地道な取り組みの積み重ねをこれからも継続できるよう、努力していきます。

思いやりの精神こそが、 企業を支え、 CSRを支える根幹。

私は、コベルコ建機西日本(株)にてCSR推進委員として1年間活動してきました。自社内でのCSR活動の啓蒙はもとより、展示会でのパネル展示などを提案し、社外に向けてもPRしてきました。推進委員に選ばれた当初は、CSRとは何か?何をすべきなのか?と悩むこともありましたが、情報開示も一つの社会的責任であると思い、このパネル展示を思い決めました。

私は、CSRは企業のバックボーンである、つまりどの部署どの業務においても関連するものだと思っています。その中で、さまざまな部署の方々と同じベクトルで考えることは、自分自身にとっても大変有意義で、勉強になることばかりでした。私の周りでも、率先して地域行事に参加したり、ペーパーレスや有害物質への対策をとったり、まさに「身の丈に合った活動」が着実に拡大していることを実感しました。

昨今、自分自身も含めて「思いやり」が希薄になっていると感じています。地域社会や社員・その家族に思いやりを持つて取り組むことがCSR活動の根幹であり、大事なことだと考えていますので、展示会など対外的な場で、それらを広められるような活動がしてみたいと思っています。



茂見 定詩 (もみ さだし)
コベルコ建機西日本株式会社
業務部販売促進グループ
●CSR での役割: 同社の取りまとめ役
として活動

編集後記

CSR推進委員会委員長

錦野 宰一

本誌の製作中に中国四川省での大地震の一報が入りました。成都に工場がある当社にとって大事ですが、現地工場社員の安否と同時にCSRで支援している現地小中学校生徒の安否を社員皆が心配し、何か支援しようと自発的に議論が始まったのを見て、この活動をしてきて良かったと実感しました。当社としてタイムリーにできるだけの支援をしていきたいと思っています。一日も早く被災地が復旧できるよう、心よりお祈り申し上げます。

総務部 CSR推進グループ

宮尾 卓司

国や地域の情勢、現地法人等の事情によりCSR活動へのアプローチや考え方はさまざまで、一概に定量的な手法を確立させたり、成果を出すことはできません。しかしながら、実際に活動する担当者が胸に秘めるポリシーや目標は、同じ方向を向いていて欲しいと考えています。この報告書が、その役割の一端でも補うことができればと思います。また、皆さまからは大変多くの協力をお願いいただき、本年も無事に発行することができました。この場を借りて、厚くお礼申し上げます。

総務部 CSR推進グループ

上山 晶子

「東京本社前の花壇の手入れ」に参加するようになってから、自然と毎日花壇に目が行くようになりました。花壇に「みが捨てられていたり、花が踏みつけられているのを見ると悲しくなります。春にニュースで報じられていた「花いじめ」は、手入れをしている人にとって許しがたいことです。この社会環境報告書2008を読んで、皆さんの心に何か響くものがあればうれしいです。



感じています、新鮮！

小さな風。きっと最初はそこから始まる。
その風が共鳴しあい大きなニーズに成長する。
私たちは小さな風に耳を澄ます、感じとる。
人にもっと優しい技術の道を切り拓くために。
新しさと提案に満ちたマシンづくりを。
新風を感じ、帆いっぱい促え、また新たな旋風を呼ぶ。
マシンと人間の新しい関係が生まれる。

"Feelin' Fresh!" は、何よりお客さまの現場を重視する
「ユーザー現場主義」の姿勢を貫くことを誓う
私たちのコーポレート・メッセージです。

コベルコ建機株式会社 KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY CO., LTD.

東京本社／〒141-8626 東京都品川区東五反田2丁目17番1号 ☎03-5789-2111
広島本社／広島事業所：〒731-0138 広島県広島市安佐南区祇園3丁目12番4号 ☎082-874-1111
大垣事業所：〒503-0932 岐阜県大垣市本今町1682番地の7 ☎0584-89-3104

<http://www.kobelco-kenki.co.jp>

コベルコ建機東日本株式会社

〒989-2421 宮城県岩沼市下野郷字新田21番地(矢の目工業団地内) ☎0223-24-1141

コベルコ建機関東株式会社

〒272-0002 千葉県市川市二俣新町17 ☎047-328-7111

コベルコ建機中部株式会社

〒476-0001 愛知県東海市南柴田町八の割138-18 ☎052-603-1201

コベルコ建機西日本株式会社

〒660-0086 兵庫県尼崎市丸島町46番地の1 ☎06-6414-2100

コベルコ建機九州株式会社

〒816-0912 福岡県大野城市御笠川3丁目1番8号 ☎092-503-4111

コベルコ教習所

〒272-0002 千葉県市川市二俣新町17 ☎047-327-2785

コベルコ建機エンジニアリング株式会社

〒731-0138 広島市安佐南区祇園3丁目12番4号 ☎082-874-5558

コベルコ建機インターナショナルトレーディング株式会社

〒141-8626 東京都品川区東五反田2丁目17番1号 ☎03-5789-2124

関東中古車センター／〒272-0002 千葉県市川市二俣新町17 ☎047-327-5505

神戸中古車センター／〒650-0045 兵庫県神戸市中央区港島7丁目15番地 ☎078-303-0900



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

コベルコ建機はチーム・マイナス6%に参加しています。



本冊子は大豆油インク及び再生紙を使用しています